

未来につなぐ魅力あるまちづくり

1. はじめに

大分市は、緑豊かな山々と瀬戸内海を臨む青い海や川に恵まれ、古くから東九州の要衝として重要な役割を担ってきました。1964年の新産業都市への指定以来、産業集積が飛躍的に進み、2005年の佐賀関、野津原両町との合併を経て、今では人口48万人の中核市として多彩な魅力と活力に満ちた県都に発展しています。

2. 地域の特性を踏まえた魅力の創造

1) 中心市街地の魅力向上

昨年、ラグビーワールドカップ2019日本大会が開催され、大分では準々決勝2試合を含む5試合が行われました。本市中心部の「祝祭の広場」で全45試合のうち29試合のパブリックビューイングを実施したところ、多くの市民が外国人と共に盛り上がり、交流を深めていました。また期間中の本市関連イベントには延べ131万人の方が訪れ、文化・歴史・食などの魅力を国内外に発信することができました。この「祝祭の広場」は昨年8月に整備、本年10月には、広場を有効に活用し新たな財源を確保するネーミングライツを導入し「お部屋ラボ 祝祭の広場」としました。また、広場の利便性を高めるとともに、各種イベント等による活用方法を拡げ、より効果的に「集い」や「祝い」のシーン演出を図るため、大型LEDビジョン「お部屋ラボ ビジョン」を常設したところです。

豊後府内（現在の大分市）は、戦国時代の終わり頃、北部九州6ヶ国を治めた大友宗麟が聖フ



写真-1 お部屋ラボ 祝祭の広場

ランシスコ・ザビエルを招き海外との貿易を積極的に進め、日本を代表する国際色豊かな貿易都市として繁栄しました。こうした歴史を踏まえ、国指定史跡「大友氏遺跡」を本市の個性と魅力を代表する歴史公園として整備・活用を進めており、2018年9月に宗麟公と遺跡の魅力を伝える情報発信拠点「南蛮BVNGO交流館」を開館するとともに、本年6月からは「大友氏館跡庭園」を公開しています。庭園は当時の大名館では最大規模といわれる東西67m、南北30mの池を復元、彩る樹木は遺跡発掘で出土した種子や花粉を分析した情報から再現し、庭石の一部は発掘当時の状態をそのまま見ることができます。現代によみがえる庭園を是非ご鑑賞いただきたいと思っています。

2) 市内周辺部の魅力向上

市内周辺部における個性を活かした魅力ある地域づくりも進めています。

昨年11月、野津原地域では「大分川ダム（ななせダム）」が完成し、また国道442号から「のつはる湖」を望む場所に、人々が集い、ふれあう

大分市長 佐藤 樹一郎



賑わいの交流空間「道の駅 のつはる」を開設しました。これにより、本市の洪水被害の軽減や安定的な水道水の供給など、治水・利水の両面から市民生活の安全・安心の確保が図られるとともに、構造物としてのダム本体の魅力、自然に囲まれた美しい景観など、新たな観光資源として地域の活性化に大いに寄与することを期待しています。さらには、ななせダム堤体に使用するための土を採取した山の跡地をスポーツや音楽イベントなどの市民交流の場として利活用できるように整備した「のつはる天空広場」も本年7月に供用を開始しました。9月には音楽フェスティバルを開催し、自然豊かな広場で多彩な音楽を満喫いただいたところでした。

また、本市には野生のニホンザルの群れを間近で見ることができる「高崎山自然動物園」や、魚や動物と触れ合える「あそびーち」を備えた大分マリンパレス水族館「うみたまご」などの観光施設があります。現在、別府湾に面した国道10号にある両施設の近くの田ノ浦地区へ「道の駅」などの「憩い・交流拠点施設」の設置を目指しています。施設は休憩スペースのほか、サイクリングやランニング時に使える更衣室やシャワー室、物販・飲食、防災など多様な機能を備えた施設として整備することとしており、別府湾を見渡せる展望所も設ける予定にしています。

3. 広域交通ネットワークの強化

次なる時代を見据えた新たな魅力の創造として、大分県佐賀関半島と愛媛県佐田岬半島を隔てる約14kmの海峡をトンネルや橋梁で結ぶ「豊予海峡

ルート」の実現に向けた取組を進めています。本ルートの整備は観光需要の拡大や新たな産業振興の効果をもたらし、また災害時における代替ルートという面からも重要です。今後は、ルートの整備効果等について、これまでの調査結果を基に、国や関係自治体等に周知、要望を行うとともに、必要性・意義について大分、愛媛両県、また関係市町との情報の共有を進め、実現に向けた機運の醸成をさらに図ってまいります。

4. おわりに

今年に入り、新型コロナウイルスが猛威を振るい、社会経済活動に大きな打撃を与えています。本市は感染症の対策として「関連する重篤者を出さないこと」「影響により市内の企業が倒産することがないこと」を目指して取り組んでいるところです。今後、普段の生活を取り戻し、大分市がさらなる飛躍を遂げ、誰もが「住み続けたい」「訪れたい」と思える、魅力あるまちづくりを進めてまいりたいと存じます。

来年（2021年）1月には、一般社団法人全日本建設技術協会の講習会、現場研修が大分市で開催されます。現場研修では、前述した「お部屋ラボ 祝祭の広場」と、2019年度都市景観大賞「都市空間部門」国土交通大臣賞を受賞した「大分駅南地区」をご覧いただけると伺っております。「大分駅南地区」には、幅員100m、延長444mのシンボルロード「大分いこいの道」を中心に、緑の軸線を実現し市民が多様に使える魅力的な公共空間を創出しております。多くの皆様のお越しをお待ちしております。